令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　石川県　）

１．基本情報

研究指定校名	金沢市立緑小学校

○これまでの研究指定等の状況

－

○学級数

２２学級（うち特別支援学級４学級）

○児童生徒数

５３４人（令和８年２月１日現在）

○URL

https://www14.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1710035

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	豊かな人間関係を築く児童生徒の育成を目指して

○調査研究のテーマを設定した目的

近年、「子どもの人権」に関する問題が全国的に関心を集めているが、本県においても児童生徒間のトラブルが少なからず存在しており、児童生徒が安心して生活し、学べる、人権が尊重された環境づくりの必要性が高まっている。また、学校教育における児童生徒の学びは若い世代の意識の向上につながると共に、家庭や地域にも波及することが期待される。

このことから、学校における全ての教育活動全般を通じて、人権や人権擁護に関する知的理解と、それらを直感的に感受し、共感的に受けとめる感性や人権感覚の涵養を基盤として、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、実践的な行動力など、児童生徒の様々な資質や能力の育成をめざす。

○調査研究の概要

児童生徒一人一人が尊重されるとともに、互いのよさや可能性を認め合い、豊かな人間関係を築く児童生徒の育成をめざした学校づくり、授業づくりについて研究する。また、組織的に人権教育を推進するための校内体制の確立と、人権教育に係る教職員の資質及び指導力の向上を図るための研修についても研究を進める。本研究指定校を、本県の人権教育推進の核と位置付け、実践事例や研究成果を県内に広めることによって、人権教育の一層の充実を図る。

○指定理由

金沢市立緑小学校では、「豊かな人間性を持ち、たくましく、自律した児童の育成」という学校教育目標のもと、学校研究主題を「豊かな心、確かな学力の育成」と掲げ、「豊かな人間関係を土台にした『分かった・できた』のある授業づくり」、「一人一人に居場所がある学級集団づくり」、「集団や自己の課題を主体的に解決する場づくり」を柱として人権教育に取り組んできた。

それらの取組により、児童アンケートでは、「その時間に学習することがわかりましたか：92.5%」「先生はあなたのよさやがんばりを認めてくれていますか：88.6%」「友達は自分のよさやがんばりを認めてくれていますか：85.2%」など、肯定的な評価をする児童が多く見られるようになってきている。

一方で、教育活動全体で自己肯定感を育む取組を進めてきたものの、未だにそこに課題が見られる現状である。また、児童の実態として相手の気持ちを推察することが苦手な児童もおり、そこから友達とトラブルになることが多く、不登校児童もやや増加傾向にある。日頃の授業においても、多様な考えを受け入れ、他者と関わりながら考えを深める姿、粘り強く自ら学び、自ら考えようとする姿については、課題が見られるのが現状である。

このような学校の現状を踏まえると、これまでの実践を土台にしながらも、さらに、学校における全ての教育活動を人権教育の視点で捉え直し、豊かな人間関係を育成するため、家庭や地域、中学校と連携を図りながら、学習活動づくり・人間関係づくり・環境づくりを一体化させた教育活動を進める必要がある。

そのような教育活動の実践により、児童自身が人権に関する知的理解を深めるとともに、自己についての肯定的態度や自他の価値を尊重する態度、他者の痛みや感情を共感的に受容できる想像力や感受性などといった人権感覚の涵養を基盤として、豊かな心が育成できると考える。また、それは、児童の自ら考え、自ら学ぶ力確かな学力にもつながると考え、本校を指定した。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

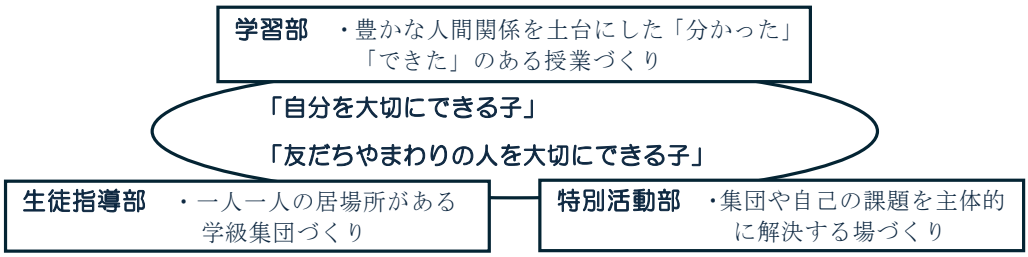
① 子供	◎
② 女性	
③ 高齢者	〇
④ 障害者	〇
⑤ 同和問題	〇
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

本校はこれまで、「児童一人一人に居場所のある温かい学級・学校づくり」や「『分かった･できた』のある授業づくり」に取り組んできた。教員アンケートでは、「自己有用感を高めるために『ほめる･認める･価値付ける･励ます』働きかけをしている」、「児童と信頼関係を構築し、交友関係や悩みを把握するように努めている」の項目において、肯定的評価が１００％を示す一方で、児童アンケートでは、「先生はあなたのよさやがんばりを認めてくれていると思いますか」や「友達はあなたのよさやがんばりを認めてくれていると思いますか」の項目において、約８割の児童が肯定的な評価をしているものの、「とてもそう思う」と回答する児童は約半数という結果であった。また、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目において、「あまりそう思わない・そう思わない」と回答する児童が２割程度見られる状況であった。児童一人一人が尊重され、互いのよさや可能性を認め合い、豊かな人間関係を築く児童の育成を目指した学校づくり、授業づくりがより一層求められている状況であった。

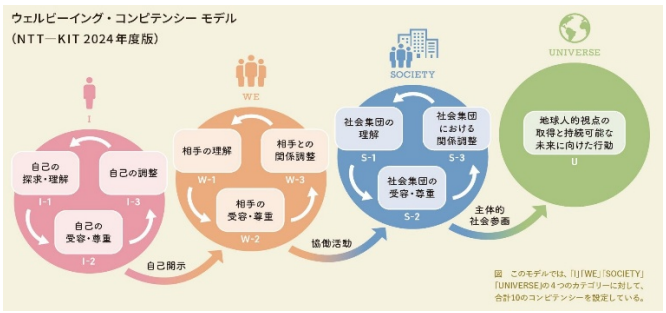
そこで本校では昨年度、学習指導、生徒指導、特別活動を柱に、学校における全ての教育活動を人権教育の視点で捉え直し、研究主題及び副題を「豊かな心 確かな学力の育成 ～自ら学ぶ子を目指して～」と設定した。「豊かな人間関係を土台にした『分かった・できた』のある授業づくりや、一人一人の居場所がある学級集団づくり、集団や自己の課題を主体的に解決する場づくりを行うことで、自他を大切にする豊かな心や、粘り強く自ら学び、自ら考える確かな学力を身に付けた子が育成されるだろう」と仮説を立て、研究を進めてきた。また、これまで以上に「自分を大切にできる子」「友だちやまわりの人を大切にできる子」の育成を意識した取組にするため、ウェルビーイングの視点を取り入れた教育活動や授業づくり、教職員研修などを行うことにより、児童一人一人が尊重されるとともに、互いの良さや可能性を認め合い、豊かな人間関係を築く児童の育成を目指した。



「ウェルビーイング」の視点を取り入れた諸活動・授業づくり

○実施方法

①豊かな人間関係を土台にした「分かった・できた」のある授業づくり（学習部）



Well-being
Well ：よい
being：ある、～な状態
→「何だかいいな」
「心地がいいな」

出典：平真由子・渡邊淳司・横山実紀（2025）『ウェルビーイング・コンピテンシー―学びの現場にウェルビーイングを取り入れるための考え方と実践方法』東洋館出版社
※ウェルビーイング・コンピテンシー…多様な

日本電信電話株式会社（ＮＴＴ）社会情報研究所Ｗｅｌｌ-ｂｅｉｎｇ研究プロジェクトと、金沢工業大学（ＫＩＴ）平真由子准教授の共同研究による「ウェルビーイング・コンピテンシーモデル」や、そこで開発された「わたしたちのウェルビーイング・カード」を授業や様々な活動の中で活用した。

わたしたちのウェルビーイングカード
「Ｉ（わたし）」:「挑戦」「希望」など
「ＷＥ（わたしたち）」:「信頼」「感謝」など
「SOCIETY（みんな）」:「多様性」「社会貢献」など



「Ｉ（わたし）」「ＷＥ（わたしたち）」「ＳＯＣＩＥＴＹ（みんな）」「ＵＮＩＶＥＲＳＥ（あらゆるもの）」の４つのカテゴリーのうち、本研究では「Ｉ」と「ＷＥ」のカテゴリーを重点的に扱い、「わたしたちのウェルビーイングカード」も活用しなが

ら、教育活動全体を通して、「自分を大切にできる子」「友だちやまわりの人を大切にできる子」の育成を目指した。

ア　学習の基盤づくり

学習の基盤づくりについては、全学年がすべての教科において共通実践として取り組んだ。

・「聴くことは思いやり」（「目」「耳」「心」で「聴く」）

相手を大切にする心を育むことを目指して、聴くことの目標を各学級で設定した。また、聴くことの「系統表（低中高学年）」を作成し、具体的に目指す姿を意識して指導できるようにした。

・「スイッチ３（準備・ベルスタート・あいさつ）」の指導

「Ｉ」の視点として「自分の心を落ち着かせて授業をスタートさせること」や「ＷＥ」の視点として「みんなで気持ちよく授業をスタートさせる」ことを意識できるようにした。

・「緑学習スタイル２０２５」

学習展開や学習過程プレートの活用、学習ばっちりタイム（適用問題の時間）、「Ｉ」と「ＷＥ」の視点を大切にしたふり返りなど、学級担任でも専科教員でも授業のスタイルをそろえることで、どの場所、時間、先生でも、安心して授業に取り組めるようにした。

・「ナイスノート」の掲示

授業で児童が書いたノートのどこがどのように良いのかを具体的に教師がコメントなどで価値付け、掲示することで、友だちの良い姿を認め、自分に生かすことができるようにした。

イ　関わり合いの工夫（「ペア交流」の充実）

ＩＣＴ等で考えを可視化し、自分でペアの相手を決めたり、相手を変えたりしながら繰り返し交流する中で、考えを形成することを目指した。その際、相手を大切にして聴くことや目的意識、課題意識を明確にして交流することを指導した。

ウ　地域の方などとの交流・活動

地域の方や地域に住む職人、施設などとの交流やふれあいを体験する中で、地域の方々と子どもたちをつなぐだけでなく、子どもたちの「感謝の心」や「相手を大切にする心」を育んだり、「自分の生き方」について学んだりした。

（今年度の活動）

【１年】生活科：野菜作り（苗植え・収穫）、昔遊び
【２年】生活科：野菜作り（苗植え・収穫）、
　　課外：寺子屋教室（地域の方による放課後学習）
【３年】総合：二塚ジョンカラ（地域に伝わる踊り…運動会で披露）、押しずし、和菓子
【４年】総合：加賀友禅（地域の施設を見学）、水引
【５年】総合：米作り（田植え・稲刈り・もちつき）
　　家庭科：製作活動（地域の方から手縫いやミシンの使い方を学ぶ）
【６年】家庭科：製作活動、総合：職業人に学ぶ（キャリア教育）
【特別支援学級】自立活動・生活科：野菜作り（苗植え・収穫）、桑の実獲り
【全校】課外：読み聞かせ会（図書ボランティア）

エ　人権課題に対する取組

人権や人権擁護に関する知的理解を図るとともに、人権が持つ価値や重要性を

直感的に感受し共感的に受けとめる感性や人権感覚、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度、実践的な行動力の育成を目指した。

・「認知症講座」「高齢者体験」「高齢者施設訪問」（６年）

地域包括支援センターの職員から認知症について教えていただいたり、学校の近くにある高齢者施設を訪問し、入所者の方と交流したりした。

・「心の健康講座」（４・５・６年）

「金沢レインボープライド」の方を招聘し、講演会（「ＬＧＢＴＱ＋ってなんだろう？～みんなちがってみんないい～」）を開催した。

・「人権コンサート」（全学年）

視覚障害のあるトランペット奏者の方を招き、演奏会と講演会を行った。

・部落差別の歴史理解のためのＤＶＤの活用（６年社会科）

部落差別の歴史理解のためのＤＶＤや指導案を活用し、児童が同和問題についての理解を深め、自分たちができることを考えた。

・その他

「ネットいじめ防止講座」（４、５年）、「人権週間読み聞かせ」（全学年）、「パラスポーツ体験」（４年）、「パラアスリートの交流」（６年）等を開催した。

オ　学習指導案

「Ｉ」と「ＷＥ」のウェルビーイング・コンピテンシーを学習指導案上に明記することで、ウェルビーイングの視点を取り入れた授業に取り組むことを意識できるようにした。

②一人一人の居場所がある学級集団づくり（生徒指導部）

ア　「ほめる」「認める」「価値づける」「励ます」

好ましい人間関係を育むため、授業の中や行事のふり返りの場面など様々な教育活動を通して、教職員から児童へ、そして児童相互が「できたことをほめる」「がんばりを認める」を意識した取組を行った。

イ　「Ｉ」「ＷＥ」の視点を大切にした生活目標、保健目標

生活目標や保健目標に「Ｉ」「ＷＥ」の視点を取り入れ、自分も相手も大切にするという人権感覚を養うことを意識した。

ウ　ナイスレター

日常の学校生活の中で感じたすてきな姿を児童同士、または教職員から児童へ、メッセージ（ナイスレター）を送り、学級で紹介したり教室に掲示したりするなど、互いのよさや頑張りを認め合うことで、自己肯定感や自己有用感の向上を図った。いつでもどんなときでも書けるように、ナイスレターの用紙を廊下に設置した。

エ　そうじＭＶＰ

６年生がたてわり掃除で下級生のがんばりを認め、「そうじＭＶＰカード」を渡し、そのカードを各教室に掲示した。

オ　異学年交流

「なかよしプール」（１・６年）、「二塚ジョンカラ」（２・３年）、「なわとび」（１・６年、２・５年、３・４年）、「秋祭り」（１・２年）などの異学年交流を通し、高学年は低学年に対し優しく接し、低学年は高学年に感謝の気持ちをもつなど、豊かな人間性の育成を図った。交流が終わったあとは、互いに感謝の手紙などを渡し掲示することで、相手を大切にする心の育成を図った。

カ　いじめ防止の徹底

全学年で生活アンケート（毎月）やＱ－Ｕアンケート（年２回）を実施し、学年会や児童理解の会で情報を共有し、指導や支援・見守りにつなげた。

③集団や自己の課題を主体的に解決する場づくり（特別活動部）

ア　児童集会・代表委員会

「よりよい緑小学校は自分たちの手でつくる」を合い言葉に、児童会から提案された取組や児童集会などの体験的活動を通して、児童の集団への所属意識や連帯感を高めた。今年度は「休み時間は外で遊ぼう」「あいさつ運動に参加しよう」などの取組が児童から提案された。

イ　なかよしタイム（たてわりあそび）

高学年は低中学年のお手本となる姿を目指し、低学年は、中学年や高学年の優しさにふれる機会を設けた。

ウ　いいところミッケ

学校行事等における高学年の姿に、低・中学年が感謝や憧れの気持ちを伝えた。

エ　サンキューレター

児童同士で互いにありがとうを伝える手紙を書く取組を行った。サンキューレターは各教室内や体育館入口にサンキューフラワーとして掲示した。また、全校児童の前で児童から児童へありがとうを伝える「ありがとう集会」を学期に一回設定した。掲示物、集会共に児童の心が温まる取組となった。

④教職員研修

金沢工業大学　平 真由子 准教授を講師として招き、「ウェルビーイングとは何か」「ウェルビーイングを教育で実現していくとはどういうことなのか」など、ウェルビーイングの定義や、ウェルビーイングを実現する力を育てるためのポイントなどについて学んだ。実際に演習を体験することで、生活の中の様々な場面における自分自身や周囲との関わりの中で、より良く生きることにつながる活動や授業づくりを考えることが大切であるということを理解することができた。教師自身の視野が広がり、「自分自身を知る」「自分自身を大切にすることのよさを実感できた」といったふり返りが多く見られた。また、「わたしたちのウェルビーイングカード」の使い方についても教えていただき、授業や活動の中での活用につなげた。さらに、平先生の師範授業によって、ウェルビーイングの視点をどのように授業の中で活用していくのかを学び、実践に生かすことができた。

〇検証・評価・改善・普及

「児童アンケート」「教職員アンケート」における下記のアンケート項目等について、数値に基づいた検証を行い、結果を児童とも共有しながら、教師の指導改善や児童の学習改善につなげた。アンケートは、年間を通じて複数回実施し、肯定的な回答の割合や個々の児童の回答の変容を検証した。

【教職員アンケートより】　※数字は肯定的評価

項目	５月
ベルスタートができるように意識的に指導している	１００％
自分と相手を大切にしたふり返りを意識して指導している	８３％

項目	Ｒ７前期

自己肯定感を高めるために「ほめる」「認める」「価値づける」働きかけをしている	１００%	１００%

【児童アンケートより】　※数字は肯定的評価

項目	Ｒ７前期
先生はあなたのよさやがんばりを認めてくれていますか	８６．４%
友だちはあなたのよさやがんばりを認めてくれていますか	８４．７%
サンキューレターなどの取組で自分のよいところが分かりましたか	７７．１%

授業や行事など、様々な教育活動の場面で自己肯定感や自己有用感を高め、互いを大切にし、互いの良さを認め合える人間関係を構築するための取組を行うことができた。さらに今年度は、「ほめる･認める･価値付ける･励ます」声かけなどに加え、学校生活の様々な場面でウェルビーイングの視点を意識した取組を行ってきた。これらの取組を通して、児童の心や行動の変化を多くの場面で感じることができた。

知識的側面の成果として、児童アンケート「先生はあなたのよさやがんばりを認めてくれていますか」、「友だちはあなたのよさやがんばりを認めてくれていますか」の項目における肯定的評価が向上しており、児童が自分や友達のよいところを見つけることで、自分も友達も大切にすることのよさを理解できたことが挙げられる。

また、価値的・態度的側面の成果として、授業や集会の場面で相手の方に体を向けて話を聴く姿や、相手と目を合わせ、身ぶり手ぶりを交えて、いきいきと考えを伝え合う姿が昨年度と比べ多く見られるようになってきており、相手を大切にし、相手の気持ちを考えた言動を行おうとする心が育ってきたことが挙げられる。

さらに、技能的側面の成果として、児童同士のトラブルが昨年度より少なくなったことや、長休み、昼休みの時間が終わるメロディーチャイムが鳴ると同時に、全員が一斉に遊びをやめ、教室に向かう姿などが多く見られるようになってきており、相手やみんなのことを考えて行動する児童の姿が増えたことが挙げられる。

一方、課題としては、児童アンケート「サンキューレターなどの取組で自分のよいところが分かりましたか」という項目に「分からない」と回答した児童が２割近くいたことが挙げられる。児童は、様々な取組の中で自分のいいところを友達や先生から伝えてもらっていたが、それが「自分にはよいところがある」という意識につながっていない現状があることから、自己肯定感を高めるための工夫がさらに必要であると考える。

今年度、本校の取組は学校便りやスクールフォーラム、学校運営協議会、公開研究発表会など、様々な機会を通して、保護者や地域、他校へ発信してきた。今後も、今年度の取組を継続しながら、さらには保護者や地域への発信も積極的に行い、学校だけでなく家庭や地域におけるつながりの中で、子どもたちが豊かな人間関係を築いていくため、取組を推進していきたい。

５．人権教育にかかる年間指導計画



人権教育年間指導計画

「人の心の痛みがわかり、温かく受け入れ、共に支え合う人間関係を育てる」指導計画

［1年］

月	単元（教科）	視点	道徳	視点	学級活動	視点	特別活動等
4	どうぞよろしく （国語・生活）	集団	ちいさないのち	生命尊重	ぼくは、私は緑小の1年生	集団	1年生となかよしタイム たてわり活動 縦割り清掃（通年）
5	きれいにさいてね（生活） サツマイモ苗植え（生活）	生命尊重	ありがとう	集団			運動会
6	ボール遊び（体育）	集団	もりのプレゼント	集団	みんな仲良く	集団	ミッケ お話タイム （友情・思いやり）
7	大きなかぶ（国語）	集団	オリンピック・パラリンピック	国際理解			
9					みんな友だち	集団	なかよし遊び
10	サツマイモ収穫（生活）	生命尊重	どんなあいさつをしますか	集団			ミッケ
11	ずうっと、ずっと、大好きだよ（国語） ボール遊び（体育）	生命 集団			読書に親しもう	集団	マラソン記録会 なかよし遊び
12	じぶんでできるよ （生活）	集団	学校のかえりみち	思いやり			お話タイム （人権週間）
1					三学期の係活動	集団	人権コンサート
2	どうぶつの赤ちゃん （国語）	生命尊重	花のかんむり	思いやり			なわとび大会 6年生を送る会 ミッケ
3	ボール遊び（体育）	集団	ハムスターの赤ちゃん	生命尊重	もうすぐ2年生	集団	感謝のメッセージ なかよし遊び

［2年］

月	単元（教科）	視点	道徳	視点	学級活動	視点	特別活動等
4			大きくなったね	生命尊重	新しい学年 気持ちのよいあいさつ	集団	1年生となかよしタイム たてわり活動 縦割り清掃（通年）
5	野菜苗植え（生活）	生命尊重			楽しい運動会	集団	
6	「スイミー」（国語）	集団			みんな仲良く	集団	運動会　ミッケ お話タイム （友情・思いやり）
7			タヒチからの友だち	国際理解			
9	うごくうごくわたしのおもちゃ（生活）	集団					なかよし遊び
10	「お手紙」（国語） 野菜収穫（生活）	集団 生命尊重			楽しいなかよし遠足 係の仕事の工夫	集団	ミッケ
11			くりのみ	親切	読書に親しもう お楽しみ会	集団	マラソン記録会 なかよし遊び
12			やくそく	生命尊重			お話タイム （人権週間）
1			ぐみの木と小鳥	思いやり	3学期の係活動	集団	人権コンサート
2	「あしたへジャンプ」 （生活）	生命尊重					なわとび大会 6年生を送る会 ミッケ
3	「スーホの白い馬」 （国語）	国際理解	げんきのもと	生命尊重	もうすぐ3年生	集団	感謝のメッセージ なかよしタイム

人権教育年間指導計画

「人の心の痛みがわかり、温かく受け入れ、共に支え合う人間関係を育てる」指導計画

［3年］

月	単元（教科）	視点	道徳	視点	学級活動	視点	特別活動等
4	きつつきの商売（国語）	集団	おじいちゃんとの楽しみ	親切	新しい学年 気持ちのよいあいさつ	集団	1年生となかよしタイム たてわり活動 縦割り清掃（通年）
5			心をしずめて きいてるかいオルタ	相互理解 個性の尊重	運動会を成功させよう	集団	ふたつかジョンカラ運動会
6			足りない気持ちは何だろう	礼儀			お話タイム （友情・思いやり） ミッケ
7			同じ小学校でも	国際理解			
9	わたしと小鳥とすずと（国語）	集団	おかあさんの「ふふふ」	個性の伸長	友だち	友情	なかよし遊び
10	ちいちゃんのかげおくり（国語）	生命尊重	同じなかまだから お父さんからの手紙	公正公平 生命尊重			ミッケ
11	毎日の生活と健康（保健）	生命尊重					マラソン記録会 なかよし遊び
12	三年とうげ（国語）	生命尊重	いつもありがとう	感謝			お話タイム （人権週間）
1			メニューにない料理 れいぎ正しい人	親切 生命尊重 礼儀			人権コンサート
2			たっきゅうは四人まで	友情	よさを認め合おう	集団	なわとび大会 6年生を送る会 ミッケ
3	モチモチの木（国語）	集団			もうすぐ4年生	集団	なかよし遊び 感謝のメッセージ

人権教育年間指導計画

「人の心の痛みがわかり、温かく受け入れ、共に支え合う人間関係を育てる」指導計画

［4年］

月	単元(教科)	視点	道徳	視点	学級活動	視点	特別活動等
4	「春のうた」 「白いぼうし」(国語)	生命尊重		礼儀	こんな学校・学級にしよう 気持ちの良いあいさつ	集団	1年生となかよしタイム たてわり活動 縦割り清掃(通年)
5			おねがいします	国際理解	楽しい運動会	集団	運動会
6	「一つの花」 (国語)	集団	海をこえて いのりの手	友情	助け合おう	集団	お話タイム (友情・思いやり) ミック
7	「新聞を作ろう」(国語)	生命尊重			きそく正しい生活をしよう	集団	
9	「ごんぎつね」(国語) パラスポーツ体験 (総合)	生命尊重			気持ちの良いあいさつ	集団	なかよし遊び
10	「クラスみんなで決めるには」(国語)	集団					ミック ネットいじめ防止講演会
11							マラソン記録会 なかよし遊び
12			心と心のあくしゅ	親切	きそく正しい生活をしよう	集団	お話タイム (人権週間)
1	「体の成長とわたし」 (保健)	生命尊重			力を合わせて	集団	人権コンサート
2	「もしものときにそなえよう」(国語)	生命尊重			よさを認め合おう	集団	なわとび大会 6年生を送る会 ミック
3			にぎりしめたいね	相互理解	もうすぐ5年生	集団	感謝のメッセージ なかよし遊び

人権教育年間指導計画

「人の心の痛みがわかり、温かく受け入れ、共に支え合う人間関係を育てる」指導計画

［5年］

月	単元（教科）	視点	道徳	視点	学級活動	視点	特別活動等
4	なまえつけてよ（国語）	集団	命	生命尊重	こんな学級・学校にしよう 気持ちの良いあいさつ	集団	1年生となかよしタイム たてわり活動 縦割り清掃（通年）
5			やさしいユウちゃん	親切			田植え体験 運動会
6	魚のたんじょう（理科）	生命尊重	サタデーグループ	集団	助け合う仲間	集団	お話タイム （友情・思いやり） ミック
7	できるよ、家庭の仕事（家庭）	集団	七福地蔵	公正公平			宿泊体験
9	花から実へ（理科）	生命尊重	のりづけされた詩 真由、班長になる	正直 集団	気持ちのよいあいさつ	集団	なかよし遊び
10			折れたタワー	相互理解	心にひびく言葉づかい	集団	ミック ネットいじめ防止講演会 稲刈り体験
11			命の種を植えたい	生命尊重	友だち	集団	マラソン記録会 なかよし遊び もちつき体験
12	人のたんじょう（理科）	生命尊重	ペルーは泣いている	国際理解			お話タイム （人権週間）
1		集団			気持ちのよいあいさつ	集団	人権コンサート
2			マインツからの頼り	国際理解	力を合わせて	集団	なわとび大会 6年生を送る会 ミック
3	大造じいさんとガン（国語）	信頼			もうすぐ6年生	集団	なかよし遊び 感謝のメッセージ 卒業式

人権教育年間指導計画

「人の心の痛みがわかり、温かく受け入れ、共に支え合う人間関係を育てる」指導計画

［6年］

月	単元(教科)	視点	道徳	視点	学級活動	視点	特別活動等
4	※わたしたちのくらしと日本国憲法(社会)	権利	命のアサガオ	生命尊重	最上級生になって	集団	1年生となかよしタイム たてわり活動 縦割り清掃(通年)
5	子育て支援の願いを実現する政治	生命尊重 権利			気持ちの良いあいさつ	集団	運動会
6	動物のからだのはたらき(理科) 表現運動(体育)	生命尊重	東京オリンピック 国旗にこめられた思い	国際理解			お話タイム (友情・思いやり) ミッケ 認知症講座 高齢者とのふれあい
7	植物のからだのはたらき(理科) 共に生きよう(総合)	生命尊重 集団					なかよし遊び
9			自由行動	自由責任	気持ちの良いあいさつ	集団	宿泊体験
10					心にひびく言葉	集団	ミッケ
11			日本とトルコのつながり その思いを受け継いで	国際理解 生命尊重	友だち	集団	マラソン記録会
12	世界に歩みだした日本(社会)	国際理解					お話タイム (人権週間)
1	※わたしたちのくらしと日本国憲法(社会)	権利	大勢の人の命を守った外交官	公正公平		集団	人権コンサート
2			最後のおくりもの	親切	力をあわせて	集団	なわとび大会 6年生を送る会 ミッケ
3	世界の未来と日本の役割(社会)	国際理解					なかよし遊び 感謝のメッセージ 卒業式

※わたしたちのくらしと日本国憲法(社会)･･･資料「部落差別の歴史理解のためのDVD」及び学習指導案活用

人権教育の全体計画

学校の教育目標

豊かな人間性をもち、
たくましく、自律した児童の育成

【児童像】
自律した子
- なかよく助け合う子
- 自ら学び　よく考える子
- 元気で明るい子
- 家庭や郷土を愛する子

関連する法規
- 日本国憲法
- 教育基本法
- 児童権利条約
- 同和対策審議会答申
- 同和対策事業特別措置法

県及び市の人権教育基本方針

児童生徒の発達段階に即し、小学校、中学校及び高等学校における各教科、道徳、特別活動等すべての教育活動を通して人権尊重の教育を行う

人権教育では人間尊重の精神に徹し、全ての偏見や不合理な差別を解消し、真の民主的社会を実現していく意欲と実践力を持とがもとめられている

そのためには、教育活動全体を人権教育の視点から見直し、意図的計画的に自他の尊厳を重んじる精神を培うとともに、一人一人の児童生徒の成長、発達、自己実現達成を図る教育の推進に努める必要がある

各人権課題への取組

女性	男女が尊重し合うことの大切さを理解させる
子ども	相手の立場に立って考えることを身につけさせる
高齢者	高齢者への尊敬と感謝の気持ちを育てる
障害者	誰もが住みやすい社会作りを理解させる
同和問題	基本的人権の大切さを理解させる
外国人	文化や考え方を尊重し共に生きる態度を育成する
その他	エイズやハンセン病、情報モラルについての理解を深めさせる
インターネット	自分や周りの人を大切にするソーシャルメディアの正しい使い方を理解する

児童の実態
- 人なつこい子どもたちが多い
- 基本的な生活習慣や対人関係作りが未熟な子が目立つ

地域の実態
- 古くからの村の地域と大きな市営団地、新興住宅地の三地域からなる。
- 開発が進むが、農業地域も残っている

保護者の願い
- たくましく物事に取り組む子
- 優しく思いやりのある子

教師の願い
- 主体的に生き生きと学び合う子
- 明るくのびのびとした思いやりのある子

研究主題

豊かな心　確かな学力の育成

人権教育の目標

人の心のいたみがわかり、あたたかく受け入れ、共に支え合う人間関係を育成する

人権教育学年別重点目標

低学年	仲良くふれあう活動を通して友だちのよさをみつけようとする態度を育てる
中学年	仲間とのふれ合い活動を通して、人を思いやり、助け合う態度を育てる
高学年	心のふれ合い活動を通して、いじめ等の問題を考え、仲良く活動できる態度を育てる

各教科

国語	読みの指導で人物の気持ちの変容主題を読みとらせることにより、人間尊重の理解を深めるとともに、言葉の正しい使い方を身につけさせる
社会	事実・事象を正しく見つめ、人間尊重を基本とした正しい判断力を育てる
算数	総合的・発展的に考える力や処理する力を育てる
理科	事象や現象を厳しく見つめ、ありのままに捉える鋭い観察力を養う
音楽	生活を明るく豊かなものにしていく態度や習慣を育てる
図工	美しいものを見て真に美しいと感じる心情を育て、自ら美を探求する態度を育む
家庭	家庭生活を見つめ、不合理な点を改善し、自らの役割と責任を果たし、家庭を明るくしようとする態度を育てる
英語	英語学習を通して外国の文化に触れ外国の人々の暮らしや考え方を知る
体育	進んで決まりを守り、互いに協力し合い、自己の責任を果たそうとする態度を育てる
生活	自分と身近な社会や自然とのかかわりを通して、自分らしい考え方やかかわり方に気づかせる
総合	様々な活動を通し、他の人の気持ちを推し、はかれるようにする

実践活動

国語科、社会科、理科、生活科等のすべての教科と道徳における学習および特別活動を通して人権尊重の精神を育てる

学級経営・学級づくり

基本的生活習慣を身につけるとともに、友だちを思いやり、互いに支え合い高め合う人間関係を育てる

学校像

人間尊重を基盤として
人権同和教育が
進められる学校

生徒指導

子どもを人格を持った一人の人間として尊重し、教師と子ども、子ども同士の好ましい人間関係の育成

特別活動

- 協力して活動することを通して、自分の生活を高めようとする実践的態度を育てる
- 温かい、豊かな人間関係のもとで、望ましい集団行動を通して集団の一員としての所属感や連帯感をもたせる
- 共同の生活体験、奉仕活動、勤労生産的活動を通して、思いやりやいたわりの心を育てる
- 人間尊重の精神にそった学級づくりにより、仲間への思いやりの心を育てる

道徳

相手の思いに心を寄せたり、優しさの表現について考えたり、思いやり、いたわりを態度で表せる道徳的実践力を身につけさせる

啓発活動

(1) 地域
・コミュニティスクールとして地域への働きかけを行う
(2) 保護者
・子どもを通して思いやりを大切にする家庭教育のあり方を探る
(3) 児童
・すべての教育活動を通して人権尊重の態度を育てる
(4) 教職員
・研修会、学習会等の研修を深めるとともに、実践活動を通して人権・同和教育の理解を深める
※「部落差別の歴史理解のための DVD 」を活用した研修会を実施する。(10 月)

６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）

